

【別冊】

# 総務教育常任委員会資料

(平成30年8月21日)

【項目】

ページ

4 第9回中海会議の開催結果について

【広域連携課】・・・1

5 平成30年度第1回パートナー県政推進会議の開催結果について

【県民課】・・・3

元気づくり総本部

## 第9回中海会議の開催結果について

平成30年8月21日  
広域連携課  
水環境保全課  
農地・水保全課  
河川課

沿岸住民の生命と財産を守り、美しい中海の自然環境を次代に引き継ぐため、中海の水に関する諸問題を協議検討する第9回中海会議の開催結果は次のとおりです。

- 1 日時 平成30年8月20日(月)午後2時から4時まで
- 2 場所 ANAクラウンプラザホテル米子(米子市)
- 3 構成員 国土交通省中国地方整備局長、農林水産省中国四国農政局長、鳥取県知事、島根県知事、米子市長、境港市長、松江市長、安来市長  
〈オブザーバー〉 環境省(中国四国地方環境事務所長)、防衛省(美保基地司令)

### 4 概要

#### (1) 中海及び境水道の堤防、護岸等の整備について

- 部会「中海湖岸堤等整備に係る調整会議」(事務局:中国地方整備局出雲河川事務所)から、中海湖岸堤整備事業の進捗状況等について報告があり、意見交換を行った。
- 大橋川改修事業の条件として、大橋川幅の前段階で中海湖岸堤を先行して時系列的に整備する手順を踏まえ事業が進められていることについて、改めて確認がなされた。

##### [報告の概要]

- ・ 鳥取県側における中海湖岸堤の短期整備箇所(6箇所)のうち5箇所(米子空港南等)が完成済。残る1箇所(貯木場)も工事着手予定であり、短期整備箇所については概ね完了の目途がついた。
- ・ 短中期整備箇所(5箇所)のうち、平成28年度から前倒して着手している3箇所(貯木場北、貯木場南、米子港)について、引き続き整備を促進する。

##### [主な意見]

- ・ 河川整備計画に「境水道の護岸整備については、市の内水対策が明らかになった時点で調整を図り、必要な堤防整備を図る」とされており、現段階で市の下水道事業計画の事業認可が最終段階となっていることから、内水被害のある境水道外江護岸の整備を進めていただくようお願いする。(境港市)
- 境水道外江護岸についても、関係機関と調整を進めてまいりたい。(国交省)

#### (2) 中海の水質及び流動、覆砂検討について

- 部会「中海の水質及び流動会議」及び「中海・覆砂ワーキンググループ」(事務局:鳥取県生活環境部)から、水質測定結果や水質改善の取組及び流域、外海、湖内及び窪地が水質に与える影響や底質対策のための土質条件の整理等を報告して、今後も継続して対策を進めることを確認した。

##### [報告の概要]

- ・ 平成29年度の中海の水質は、COD(化学的酸素要求量)は第6期水質保全計画の水質目標値を達成した。環境基準12地点において、全窒素は10地点、全りんは9地点は目標達成したが、全12地点での達成でないことから目標は未達成。環境基準値も未達成である。
- ・ 水質は長期的には改善傾向であり、これまでの下水道整備や流入負荷対策等の効果である。
- ・ 昨年度の同会議において、窪地等の水質への影響について、各エリアに区分して評価すべきとの意見を受け、中海13地点において、表層と底層に区分して、各負荷源の水質への影響度を検証したところ、全窒素、全りんともに表層では流域からの影響が大きく、底層では外海からの影響が大きく、湖底や窪地からの影響は小さいことを確認した。
- ・ ただし、窪地が点在する米子湾周辺では、底質及び窪地からの影響が、他の地点に比べると相対的に大きいことを確認した。
- ・ 窪地の全部埋戻し、または一部覆砂を実施する水質シミュレーションでは、水質改善効果は小さい

ものの、米子湾周辺では、湖心に比べて効果が相対的に大きいことを確認した。

- ・ 今後は、河川等からの流入負荷対策を継続し、湖内の底質の負荷対策である浅場造成・覆砂事業の早期完成を目指すこと、併せて、今後の水質改善に繋がる窪地を含めた底質対策を行うため情報整備や手法の検討を行うことを確認した。

[主な意見]

- ・ 浅場造成と覆砂事業については、効果があるということなので、引き続き進めていただきたい。(米子市、安来市)
- ・ 窪地は何か対策があるのか。(松江市)
  - 今回の検証で少なからず窪地が影響を与えることが確認されたことから、どういった工法が水質改善に有効であるかなど、コスト面も含めて検討していきたい。
- ・ 流入負荷対策は生活排水対策が進んできているので、他の自然系など総合的な取り組みを短期・中期的に分けて考えていくべきだ。(米子市、安来市)
  - 平成31年度策定の第7期の水質保全計画の中で検討したい。
- ・ 海藻刈りの支援は引き続きお願いしたい。(境港市)
  - 関係者の意見を聞きながら、支援のあり方を検討する。

(3) 中海沿岸農地の排水不良について

- 「中海沿岸農地排水不良ワーキンググループ」(事務局：米子市経済部) から、中海沿岸農地の排水不良の取組状況について報告された。

[報告の概要]

- ・ 平成29年3月に崎津モデルほ場に合計約2,000立方メートルの公共残土を搬入した。
- ・ 公共残土による客土が排水不良対策に一定の効果を上げていることから、関係機関が公共残土に関する情報の共有化を図り、引き続きストックヤード方式による公共残土受入れをさらに促進していく。

(4) 中海の利活用について

- 「中海の利活用に関するワーキンググループ」(事務局：島根県政策企画局) から、中海及びその周辺の利活用の状況について報告された。

[報告の概要]

- ・ 中海周遊サイクリングについて、本年度は伯耆国「大山開山1300年際」記念イベントとして「弁慶ライド2018」が開催されたことについて報告された。
- ・ 松江市の中海北西岸に、水陸両用機の拠点施設が完成し、中海を拠点にした遊覧飛行と連携した中海周遊観を図る必要があることについて意見交換した。

[主な意見]

- ・ 水陸両用機の発着場を含めたサイクリングロードの拡充について、引き続き検討していただきたい。(松江市)

(参考) 中海会議とは

平成21年12月19日に締結した鳥取、島根両県知事の「協定書」の趣旨に鑑み、沿岸住民の生命と財産を守り、美しい中海の自然環境を次代に引き継ぐため、新たに中海の水に関する諸問題を協議検討するため設置(平成22年4月22日)した会議。

## 平成30年度第1回パートナー県政推進会議の開催結果について

平成30年8月21日  
県 民 課

第1回目のパートナー県政推進会議を開催し、鳥取県の元気づくりについて意見交換を行いました。

### 1 日時等

- (1) 日 時 平成30年8月18日(土) 午後3時から5時まで
- (2) 場 所 ホテルモナーク鳥取
- (3) 出席者 委員14名、知事、元気づくり総本部長ほか
- (4) テーマ 鳥取県の元気づくり「本県の強み・特色を生かした地方創生の更なる取組」

### 2 主な意見等

#### ○ふるさと教育の充実等

- ・小さい頃から、自分の住んでいる町に誇りを持たせる教育をしてほしい。大人も、「何もない」ではなく地元の素晴らしさを分かなければならない。
- ・県内の高校生が卒業後、県外に出ることをマイナスと捉えるのではなく、県外で本県の良さをしっかりと語れるような力を身に付けることが大切である。
- ・地域の良さを抽象的な言葉で聞いても、高校生には実感がわからない。地域の良さは体感や経験を通して分かるものなので、そういう機会をもっと増やしてほしい。
- ・高校で「鳥取県の魅力について知ろう」という授業があるが、なぜその必要があるのかを明確に教えて欲しい。

#### ○子育てしやすい環境づくり

- ・ここ10年で子育て世代の環境は大きく変化し、子育てだけでなく、仕事や家事でも忙しくなっている。乳幼児期の影響が学童期に出てくることもあるので、愛にあふれた子育てができるような環境を整える必要がある。
- ・転勤や、移住してきたお母さんの息抜きになる場所が少ない。くつろいで、交流や相談が出来る場所が欲しいという意見を多く聞く。

#### ○都会と田舎の交流の必要性

- ・都会と田舎が交流し、相互に子どもを1週間程度受け入れるような施設や場所があれば、それぞれの文化の違いを知ることが出来る。若者にはそういう体験をして欲しい。

#### ○その他

- ・世界に羽ばたくスポーツ選手を育てようと県は「鳥取ジュニアアスリート」の育成に取り組んでいるが、県内の学生だけでなく、県外学生にも対象を広げていただきたい。それにより、日本代表を目指す学生が集まり、若者が増える。そのまま鳥取県に定住し、将来的には指導者になることもある。
- ・インバウンドも増え、鳥取県に定住する外国人も増えてきている。地域や個人の交流を通じて海外とつながることもできる。地域住民と一体となった交流を通して、鳥取県を元気にしたい。

### 3 今後の予定

会議でいただいた意見について状況等を把握し、第2回会議(11月以降開催予定)において議論を深め、県施策等への反映を検討する。



## 4 委員

[全18名]

氏名	所属等	備考
今井 正和 (いまい まさかず)	公立鳥取環境大学 副学長	
加持谷 典範 (かじたに みちのり)	江府町老人クラブ連合会若手委員会 委員長	
川口 博樹 (かわぐち ひろき)	山陰松島遊覧 (株) 代表取締役	
杉村 正男 (すぎむら まさお)	鳥取県ボート協会 副会長	
薛 幸夫 (そる へんぷ)	在日大韓国民団鳥取地方本部 常任顧問	
高虫 秀樹 (たかむし ひでき)	高虫農場 代表	
瀧山 佳世 (たきやま かよ)	とっとり暮らしアドバイザー	
福井 靖子 (ふくい やすこ)	とっとり県消費者の会 会長	
藤澤 幸恵 (ふじさわゆきえ)	NPO法人えがおサポート 代表理事	
村上 達彦 (むらかみ たつひこ)	青翔開智高校 2年生	
本池 利広 (もといけ としひろ)	地域消費生活サポーター	
藪 恵美子 (やぶ えみこ)	倉吉東高校 2年生	
矢吹 勇斗 (やぶき はやと)	倉吉東高校 2年生	
山内 有二 (やまうち ゆうじ)	鳥取県商工会青年部連合会 会長	
河上 睦子 (かわかみ むつこ)	日南町福栄女性消防隊 隊長	欠席
坂本 桃子 (さかもと ももこ)	鳥取大学地域学部 2年生	欠席
柴田 梨央 (しばた りお)	鳥取大学地域学部 2年生	欠席
山本 伊都子 (やまもと いつこ)	琴浦まちづくりネットワーク 幹事	欠席

## 5 パートナー県政推進会議について

「県政は県民のパートナー・地域のパートナー」であることを原点として制定した鳥取県民参画基本条例の基本理念に基づき、県政への県民意見の反映や県民と県政との協働のあり方について議論を深め、施策の改善を検討するため、平成25年に設置された。